

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の意図を捉えながら聴き、自分の意見と比べて考えを発言することに課題がある。 文章を読み取る力はあるが、読み取ったことを基に自分の考えを表現する力を高める必要がある。 文章全体の構成を考えたり、事実と意見を区別して文章を書いたりすることを苦手とする児童がいる。 同音異義語を正確に漢字に表す力、敬語の理解度に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分と異なる意見にも耳を傾けるとともに、相手の意見のよさを取り上げながら、自分の考えを発言することを指導する。 文章を読み取った後に、自分の考えをノートにまとめ、感想を交流する時間を設ける。 目的や意図を明確にして、「考えと理由や事例」、「原因と結果」などのつながりを意識して書く活動を取り入れる。 様々な教科や活動で、「情報ノート」を活用し、事実と意見を区別して書く活動を取り入れる。 多くの文章を読んで表現に触れ、漢字や言葉の使い方に対する理解を深め、話や文章の中で使えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> △相手の意見と自分の意見のどちらが正しいかという視点になってしまう児童が多かった。良いところを合わせたり、折り合いをつけたりすることができるように、指導が必要である。 ○児童に「読む→感想を書く→交流する」という流れが身に付き、感想を書いたり友達と話したりすることに苦手意識をもつ児童が減った。 ○多くの児童が、構成を意識して文章を書けるようになった。 △同音異義語、敬語、について繰り返し練習を行っているが、作文や日常会話に活用しきれていない児童がいる。けやきタイムを使って繰り返し取り組む。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的事象に関心の高い児童が多い。 基本的な用語について、身に付いている児童とそうでない児童の個人差が大きい。 複数の資料を関連付けて読み取ることに課題がある。 社会の制度や仕組みについて、与えられた言葉を使って説明することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書で、キーワードとして取り上げられている基本的な用語については、どのような意味なのか、児童同士で説明し合う時間を設ける。 複数の資料を同時に与え、問題を解決するためには、どの資料から考えればよいか、話し合う授業を展開する。 社会の制度や仕組みについてモデルを示し、児童がそのモデルを体験して学習できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> △基本的な用語が身に付いてきたが、用語の意味を詳しく説明できる児童は少ない。児童同士で説明し合う前に、教師が説明の手本を示す。 ○授業中にたくさんの資料から考えさせることを繰り返し、必要な資料を見つけたり、資料同士を関連付けたりできるようになった。 ○社会の制度や仕組みについて モデルで体験したことをもとに説明できるようになった。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 問題の解決方法を説明する活動を苦手とする児童がいる。 自分とは異なる考えを理解することや、よりよい考えを用いて問題を解くことができない児童がいる。 速く解くことに意識が向き、正確に解くことができない。 単位量当たりの考え方を使った問題を苦手とす 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な方法や考え方で説明できるよう、図、式、言葉などを関連付けながら、自分の考えをノートに表現できるよう指導する。 相手意識をもって、問いかけながら説明できるようにする。 それぞれの考えのよさを価値付け、他の考えとつなぐ発問を工夫する。 まとめで再考する時間を十分に取って、多様な考え方で適用問題に取り組んだり、自分の言葉で分かったことをまとめたりできるようにする。 計算の途中式や筆算を丁寧に書くよう指導する。 身近な生活場面を問題として解決する活動を設定す 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手に問いかけたり、図や式を示したりして説明できる児童が増えた。 ○他の人が考えた解法で問題を解こうとする児童が増えた。自力で複数の解法を考える事ができるようになった。 ○途中式や筆算を丁寧に書くことで、間違えずに確実に解く意識をもつことができた。テストで、ミスなく満点を取れる児童が増えた。 △単位量当たりの考え方を使った問題に、苦手意識をもつ児童は、まだ多い。けやきタイムを利用して、苦手を克服できるように支援していく。

	る児童が多い。	る。	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験をすることに意欲がある。 ・目的意識をもって実験をしていないため、結果を考察する際に、解決したい問題と、正対していない児童が多い。 ・学習した実験方法とは異なる実験についての問題が出ると、正答率が低い傾向にある。 ・実験の安全面について意識が低い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果の予想を大切にする。自分の仮説が正しいならば、実験結果がどうなるか十分に考えさせてから実験に取り組む。 ・様々なグループで実験結果の考察を行い、自分の考えをより妥当なものに近づけていけるようにする。 ・実験方法や使う道具について、何のためにその道具を利用するのか、考えさせる。実験に必要な道具を自分たちでそろえさせる。 ・理科室の使い方、実験の危険性について、毎時間説明し、定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験を何のために行うのか、意識して取り組めるようになった。問題と正対した結論を導き出せるようになった。 ○授業で行っていない発展的な実験の問題でも、何のための実験なのか意識することによって解けるようになった。 △自分たちで必要な道具準備し、安全に器具を扱えるようになったが、個人差がある。実験中の危険について意識が低い児童もいる。全体指導と個別指導を必要に応じて適切に実施する。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に意欲的に取り組む児童が多い。 ・家庭での実践の取り組みに個人差がある。 ・正しい手順や方法で制作などの活動に取り組むことに課題がある。 ・衣食住などの生活に関する様々な用語を、実感を伴って理解することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で実践した内容について話し合う時間を設定し、よりよい家庭生活について考えられるようにする。 ・実習手順や操作方法を図や動画で提示する。また、学び合えるような班の構成にする。 ・制作や調理などで体験したことを説明したり、表現したり、話し合ったりする等の活動を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○班で教え合うことによって、調理や裁縫の技術を高めることができた。 △正しい手順を間違えている児童が、実際に調理や裁縫を行う時に、手順が違ってでもできるところは、それでも良いことにしてしまった部分があるので、指導の改善をしていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを意識して学習に取り組むことができない児童がいる。 ・できない、勝てないことに対し、どのようにしたら勝てるか、という思考、判断する力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の流れをパターン化する。 ・めあてを体育ノートに記入させ、学習のはじめに確認する。 ・運動の様子を撮影し、自分や友達のよさや課題を振り返る。体育ノートに記入させ、課題や技能ポイントを共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてを確認してから学習に取り組むことで、自分の高めるべき力を意識することができた。 ○自分の課題を振り返ったり、友達の良かったところを伝え合ったりすることで、できた、できないではなく、その原因に目を向けられるようになった。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲を分析して、歌詞の意味や強弱を考えながら演奏する児童がいるが、自分の思った音楽をうまく表現できない児童もいる。 ・技術的にはできるが、ダイナミクスなどの音楽表現がうまくいかない人がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じパートの楽器同士やグループ学習を用いて互いのわからないこと教え合う活動を進める。 ・グループ発表では、よかったところ、こうすればもっとよくなることをプリントに書き、伝え合う活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のやりたい楽器やパートを熱心に進んで練習することができた。 ○ペア学習やグループ学習では、お互い高め合いながら活動をすることができた。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決ができない。自分の感覚を通して形や色などを捉えることができない。 ・既習事項を生かして表現できていない。 ・自身の作品や活動に満足していない。自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見る視点がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に授業に参加できる導入の工夫。体験的な学びから自分のイメージがもてるようにする。 ・表したいものに応じて経験した技法を選択できるようにする。 ・自分や友達のよさに気付くよう教師が言葉かけを行う。鑑賞活動の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の感覚を通して形や色などをとらえるように意識させる活動や、技法を選択する場面を多く設定することで主体的に活動できる児童が多く見られた。 ○鑑賞の活動では、形や色をもとに自分の考えを述べられるよう造形的な視点を設定した。その結果、感じたことと形や色を合わせて考えられる児童の姿が見られた。

